

1. 奈良県の現状

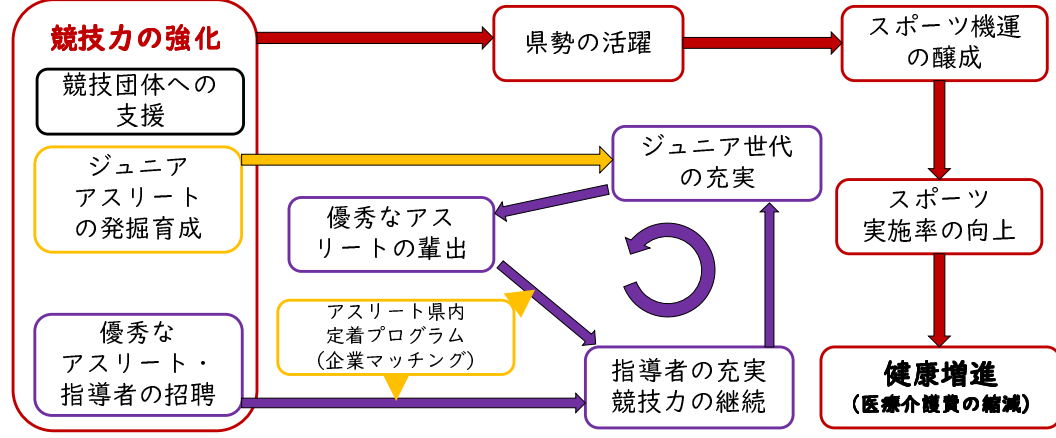
- 令和4年度栃木国体 天皇杯(男女総合):25位(893.75点)
人口の多い都道府県、冬季競技に強い県及び開催を近年に控える県が上位を占める中、いずれにも当たらない県としては良く健闘している。
* 26位広島県、27位宮城県など大都市を抱える県よりも好成績。
* 直近4大会は19位、25位、27位、25位と全て30位以内。
⇒本県はソフトテニス、馬術、なぎなた、軟式野球などの団体競技が伝統的に強く、得点に繋がっている。
- トップクラスとの点数差は大きく、1位の東京都は2436点、10位の京都府でも1332.5点と容易に埋まる点数ではない。
- 指導者不足が顕著であり、優秀なアスリートが進学、就職を機会に県外へ流出する傾向が強い。



令和13年の奈良大会でどこを目指すのか今後議論が必要
* 開催2巡目の国体(これまで33回実施)において、高知県の10位を除く32回の大会で、開催都道府県が2位以内を獲得。

2. 国スポ・全スポ大会を契機とした競技力強化

本県開催の国民スポーツ大会における県勢の活躍は、県民にあこがれや感動を喚起することでスポーツ機運が醸成される。
スポーツ実施率の向上による県民の健康増進(医療介護費の縮減)が図られるとともに、教育・子育てへの貢献も期待できる。



3. 先催県の状況

- ◆**競技力強化への取り組み**
- 【少年の部(18歳以下)の強化】
 - ジュニアアスリートの発掘育成
国スポ大会開催時に活躍の期待できるジュニア世代の発掘育成
奈良県でも今年度より実施(未来のトップアスリート発掘育成事業)
 - 強化指定校制度
競技種目ごとに強化指定校を設置
当該競技の強化拠点として競技団体推薦者への入試での一定配慮
 - スポーツ特待生制度
競技団体の推薦に基づく有望な県外中学生の県内高校進学斡旋
寮の手配(借り上げ等)、生活支援など
- 【成年の部の強化】
 - 企業×アスリートマッチング
奈良県でも今年度より実施(アスリート県内定着プログラム検討事業)
 - スポーツ指導員の採用(国スポ大会開催の3年前から本格実施)
県スポーツ協会の嘱託職員等としてアスリートを採用
50名~100名程度を採用

- ◆**強化費**
- 平成26年長崎県以降の17県(奈良含む)との比較

【開催9年前】	平均137,656千円	奈良県59,000千円(R4)
【開催8年前】	平均169,217千円	奈良県70,400千円(R5)
【開催7年前】	平均230,137千円	
⋮		
【開催前年】	平均673,321千円	
【開催年】	平均651,094千円	
【10年間合計】	平均3,780,143千円	
- 令和5年度の奈良県の強化費は、46都府県中44位(道は未回答)

- ◆**競技力強化の組織体制**
- 先催県の多くは競技力向上対策専門の課室と県スポーツ協会の協力体制により、競技力強化の各種取り組みを実施。
* 先催県における各組織の人員体制推移を現在照会中。
- 現状の奈良県の強化担当体制
 - ・スポーツ振興課スポーツ人材育成係(事務2、教員1)
 - ・県スポーツ協会(常勤1、再任用1、嘱託3)
- 本年6月に訪問した栃木県、群馬県では、各競技団体(奈良県では39)へのサポートを県職員担当制で直接実施(1人あたり3~6団体程度)
⇒ 強化費のより適正な執行を管理するとともに、各競技団体の競技力向上に向けた取り組みを伴走支援。